

2021年度自己評価結果表

学校法人東洋育英会
さくら総合専門学校

1. 学校の教育目標

医療、教育・社会福祉及び文化・教養関係の分野にわたり組織的な教育を行い、広く社会の要請に応えること。「人を助ける人になる」のスローガンのもと、地域を支える人材の育成。学生と密にコミュニケーションをとりながら指導を進める。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底。
- ②研修や勉強会の参加など各分野の最前線の情報と技術の修得。
- ③国家試験合格率の向上。
- ④退学者を発生させないようサポートの見直し。
- ⑤新学科開設に向けての検討。
- ⑥1号館の耐震リニューアルに向けての検討。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目的・人材育成像

番号	評価項目	評価
①	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
②	学校における職業教育の特色は何か	4
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
④	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
⑤	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

◆課題、今後の改善方策、特記事項等

本校のスローガンは「人を助ける人になる」である。このスローガンに沿った人材を育成するため、設置学科、教育課程等、毎年ブラッシュアップを心掛けている。

専門学校教育の目標として、国家資格の合格、学習内容を活かした職種での就職が挙げられる。そのため、国家試験過去問題の分析や対策、医療・介護分野での人材のニーズの把握を行い、養成していく。

学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等を学生・保護者等に周知するため、ホームページの充実の他、各種SNS（インスタグラム、ツイッター、フェイスブック等）を活用している。

(2) 学校運営

番号	評価項目	評価
①	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
④	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
⑤	教務・事務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
⑥	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
⑦	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
⑧	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

◆課題、今後の改善方策、特記事項等

各種規程は毎年見直しを行い、学校運営を行っている。理事会や評議員会で現場の状況を報告、相談し、より良い学校運営の見直しや改善を行っている。

情報公開においては、ホームページ及び事務室の外側にファイルを設置し、閲覧に供する等で実施している。

情報システム化については、資料請求者管理等、事務局の業務については外部システムや学内サーバーを活用し、効率的に実施できるようになっている。学生の成績・出欠席管理等、教務部に関する情報システム化についても、次年度からの導入が決定し、本校向けカスタマイズを発注し、データ作成を開始した。

(3) 教育活動

番号	評価項目	評価
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
②	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
⑥	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
⑪	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
⑫	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
⑭	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

◆課題、今後の改善方策、特記事項等

臨床工学科・救急救命科においては、国家試験受験のための補講を夏休み明けから、救急救命科の消防希望者にむけての公務員試験対策補講を夏季集中講義として実施し、確実な合格を目指し、例年以上の合格率を上げることができた。

授業評価の実施・評価については、実施が一部学科のみだったので、全学科で実施するよう、引き続き努めていく。

また、今年度から、臨床・施設実習等でお世話になっている医療機関、施設等に実習に関する感想・意見をアンケート形式でいただき、今後の実習計画・指導に活かせるようにした。

教職員の各種研修参加に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面での各種研修が中止されていたが、オンラインでの参加を行い、計画通り実施できた。

介護福祉科留学生の日本語能力のさらなる向上に向け、日本語の授業を導入し、日本語能力試験 N2、N3 の合格者を輩出することができた。

(4) 学修成果

番号	評価項目	評価
①	就職率の向上が図られているか	3
②	資格取得率の向上が図られているか	3
③	退学率の低減が図られているか	4
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

◆課題、今後の改善方策、特記事項等

就職率に関しては、例年、臨床工学科は 100%であったが、国家試験合格を優先したため、試験終了・結果発表後から就職活動を開始した学生が多く、卒業時までには内定しなかった学生がおり、例年より低い内定率となってしまった。救急救命科の公務員希望者の内定率は、夏季公務員対策講座の効果もあり、例年より向上した。また、医療機関への就職希望者についても、法改正により、救急救命士が医療機関内で処置できることが増えたこともあり、求人も増加し、医療機関への就職者が増えた。介護福祉科については、引き続き、就職希望者は 100%就職した。

国家資格の合格に関しては、臨床工学科は 3年連続 100%合格であったが、2022 年 3月卒業生は、残念ながら 2名が不合格者となり、合格率 92.6%となった。全国平均合格率(88.1%)は超えたものの、残念な結果となってしまった。救急救命科は 1名が不合格となり、合格率 96.0%と全国平均合格率(89.8%)を大幅に上回ることができた。介護福祉科については、介護人材不足に伴う経過措置として、卒業を条件に「国家試験を受験しなくても、また、不合格であっても介護福祉士の登録ができる」ことから、留学生の国家試験受験率、合格率が思わしくなかった。今後は経過措置終了時を見据え、受験率・合格率上昇を図っていく。

退学率に関しては、介護福祉科 1年生から昨年度に引き続き、別分野の専門学校への転校希望者が 6名出て、学校全体として、退学者 11名、退学率 5.9%となったが、その学生と帰国者を除くと 4名、退学率 3.0%と例年より減少し、年度当初目標の 5%を達成することができた。今後も学校全体で退学を検討している学生の早期発見に努め、引き続き 5%未満を目指す。

同窓会活動については、活動が停滞しており、卒業生の動向把握も学校情報の発信もできていない状況なので、今後は活動を活発化させていく。

(5) 学生支援

番号	評価項目	評価
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
②	学生相談に関する体制は整備されているか	3
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	4
⑦	保護者と適切に連携しているか	4
⑧	卒業生への支援体制はあるか	3
⑨	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
⑩	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

◆課題、今後の改善方策、特記事項等

就職支援については、学生への求人票等の開示を積極的に行い、より良いマッチングを行うとともに新規求人の開拓も進める。

学校医を今年度から地元クリニックに委嘱し、各種ワクチン接種、学生・教職員の健康相談に対応している。

学生への経済的支援については、日本学生支援機構をはじめ、各種団体の奨学金に対応している。特に留学生支援に関しては、介護福祉士修学支援金制度の活用を勧めている。また、学校独自の支援制度として、特待生制度や進級時特待生制度、家族割引制度を整備している。

高校・高等専修学校等との連携については、今後検討していく。

(6) 教育環境

番号	評価項目	評価
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
③	防災に対する体制は整備されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

◆課題、今後の改善方策、特記事項等

1号館が昭和39年建築で老朽化が進んでいるため、中期計画でも策定したが、建て替えまたは耐震リニューアル工事に向け準備を進めていく。

ノートパソコンやWi-Fi環境を整え、授業のみならず、自習でも利用できるようにした。

教育機器備品等の経年劣化、破損が認められるため、随時交換していく。

学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年度に引き続き、計画通りの実施ができなかった。

(7) 学生の受入れ募集

番号	評価項目	評価
①	学生募集活動は、適正に行われているか	4
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
③	学納金は妥当なものとなっているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

◆課題、今後の改善方策、特記事項等

ミスマッチを防ぐため、オープンキャンパスのみならず、会場や高等学校内での説明会で学習目標・内容、入学試験、納入金等丁寧に説明している。また、ホームページに各学科の説明や授業風景の紹介、入学方法等の各種動画を掲載するとともに、各種 SNS を駆使し、より一層理解を図れるよう工夫している。

留学生の選考については、就労や単なる日本滞在目的のための手段と考えてる者を可能な限り入学させないため、引き続き慎重に行っていく。

学費については、同分野の他校と比較して安価となっているが、臨床工学科の実習用医療機器が老朽化しているため、臨床工学科の施設設備費を 2023 年度入学生から 5 万円値上げする。

(8) 財務

番号	評価項目	評価
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
③	財務について会計監査が適正に行われているか	4
④	財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

◆課題、今後の改善方策、特記事項等

事業活動収支、資金収支ともに黒字となっている。また、年度当初予算に対し、大差ない決算となっている。

会計監査に関しては、監事及び公認会計士による監査を実施している。

財務情報については、ホームページ及び事務室の外側にファイルを設置し、閲覧に供する等で公開している。

(9) 法令等の遵守

番号	評価項目	評価
①	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2
③	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
④	自己評価結果を公開しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

◆課題、今後の改善方策、特記事項等

個人情報保護のため、各自の机上整理と、ロッカー、事務室、教務室の施錠の徹底が、まだ不足しているように感じるので、従来以上に全教職員において再確認、実施する。

(10) 社会貢献・地域貢献

番号	評価項目	評価
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
③	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

◆課題、今後の改善方策、特記事項等

学校教育施設の有効活用のため、体育館、グラウンドを地域住民・団体に安価で貸し出ししている。

学生ボランティア活動においては救急救命科の学生が毎年各市町で行われるマラソン大会等に救護ボランティアとして参加している。また、高等学校や企業から依頼される救命講習に関しても教員と一緒に参加している。さらに、自治体や介護施設等の行事運営についても学生がボランティアとして積極的に参加している。しかしながら、2021年度においても、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、各種行事が中止となり、ボランティア活動を実施する機会が減少した。

介護関連人材育成のため、外部機関主催講座に教室、設備、教員を提供している。

(11) 国際交流

番号	評価項目	評価
①	留学生の受入れ・派遣について戦略をもって行っているか	4
②	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
③	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
④	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

◆課題、今後の改善方策、特記事項等

留学生の在籍管理、生活指導等を徹底するため、専任の職員を配備している。

日本語理解が不十分の学生も見受けられることから、今年度から全学年に日本語の授業を導入した。

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

当初の目標：

- ①新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底。
- ②研修や勉強会の参加など各分野の最前線の情報と技術の修得。
- ③国家試験合格率の向上。
- ④退学者を発生させないようサポートの見直し。
- ⑤新学科開設に向けての検討。
- ⑥1号館の耐震リニューアルに向けての検討。

評価結果：

- ①新型コロナウイルス感染症拡大防止に教職員・学生一体となって取り組み、幸いなことに学校内での感染はなかったが、引き続き感染を防ぐため対策を継続して行く。
- ②2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で各種研修が多数中止となったが、オンラインで開催される研修会の開催機会が増え、そちらへの参加は増加した。
- ③臨床工学技士国家試験の合格率は3年連続100%であったが、今年度、全国平均合格率は上回ったものの、2名不合格者が出てしまった。救急救命士については1名が不合格となったが、全国平均合格率を引き続き上回り、昨年より合格率がアップした。次年度は臨床工学技士、救急救命士ともに100%の合格率を目指す。また、介護福祉科は経過措置により国家試験の受験の有無や可否に関わらず就労が可能となっているため、一部学生の国家試験合格への意欲向上が見られなかった。次年度は全員受験、全員合格を目指す。
- ④2021年度の転校を除いた退学率は、前年度の5.7%から3.0%へと減少したが、次年度についても、学生へのフォロー体制をさらに強化し、引き続き5%以内の退学率達成に努めたい。
- ⑤臨床工学科、救急救命科、介護福祉科の3学科に加え、新設学科を検討してきたが、昨今の社会情勢を考慮し、看護師を養成する学科の開設に向け、準備して行くこととした。
- ⑥1号館について、当初建て替えを検討していたが、簡易見積もりの結果、建築費の高騰により、当初見込み金額を大幅に上回るため、耐震リニューアル工事も再検討することとした。